社　会　科

I　高校生の社会的，政治的関心（意識）の発現と変容について

高　森　　充

1. 研究目的

最近の高校生の社会的，政治的関心は一般に低調かつ沈静化し，学校内外での所謂政治活動に目立った動きはないように見受けられる。しかし，虚無的，反社会的思想や行動にひかれる少数の生徒と多数の無関心，無感動層に分解し，青年らしい倫理観が稀薄化しているかにみえる。さらに教師の教育観，価値観も多元化し，事柄によってはするどく対立して，社会科における生徒の倫理的，社会的，政治的教養の育成が十分かつ効果的に指導されているとはいえない。

所で従来の研究経過は主として，名古屋大学教育学部付属学校紀要（以下紀要と略記）に「社会科における教科構造」の問題としてとりあげてきた。即ち，43.3「社会科教科構造の問題点」－政経分野の内容構造の問題点－（紀要13集），44.3「政経の教科構造と指導形態の比較」（紀要14集），45.3「政治・経済の教科構造の検討と授業の改善」（紀要15集），46.3「政治経済の教科構造の問題点」（紀要16集），46.6「政治・経済の授業改善」（高校教育，6月号，実教出版），47.3社会科教科構造検討の視点－公民的分野を中心に（17集）48.3 社会科の教科構造と方法的仮説－(分担)「政経」の目標・内容・方法の問題点（紀要18集)そして，49.3「政治」の教材構成と生徒の政治意識（紀要19集)。

以上については，主として教材構造－内容の構造化，現代化への関心にひかれて－の問題，いわば，教育内容研究にウエイトがかけられ，生徒自体のもつ倫理的，社会的，政経的関心，興味，価値観等の主要な問題を十分取りあげてこなかった。つまり，教師の側の教材内容面への関心が先行してきたといって過言ではない。

そこで，高校社会科（「政治・経済」及び「倫理・社会」）学習指導の基礎的調査研究として，

高校生の社会的，政治的関心の強度，誘因及び関心の開始時期とその変容等についての特徴的傾向を明らかにしたいと思う。

2. 研究方法

前記研究目的について，名古屋大学附属高校（生徒数406名，3×3クラス）1～3年の各クラスを選び，社会的，政治的関心度，政治的関心の誘引，社会意識，価値観等についてのアンケート調査を実施した。本校は名古屋市全域及びその周辺（尾張部）を通学区域にもつ高校であるので，大都市地域の高校生のサンプルとした。これと比較するために純農村地域の同規模の高校として，三重県立伊賀高校（生徒教388名）を選び，同一の調査を行ない，その異同を比較することとした。結果の比較は「政治，経済」未習の両校の第2学年について行った。

伊賀高校の学校概要については，次のようである。三重県阿山郡伊賀町川東－伊賀盆地のほぼ中心にあり，昭和23年9月，三重県立上野南高校西柘植分校（農業科・家庭科）として発足し，43年4月三重県立伊賀高等学校（全日制普通科96名，家政科50名第1学年）として独立校となる。卒業生の進学率は30%，他は県内及び大阪，愛知等に就職し，農業を継ぐ者はほとんどない。(昭和49年度同校「学校概況」参照)

調査に当っては同校吉村寿先生の協力を戴いた。調査項目等は，48年度に報告した「政治の教材構成と生徒の政治意識」（紀要第19集）の研究結果を参考とし，10項目に整理した。調査時期は，昭和49年12月（名大附高）～50年1月（伊賀高校）である。紙数の関係で今回はその結果の報告を中心とし，教材編成と学習指導面への具体化の問題については他日を期したい。

3. 調査の結果とその考察

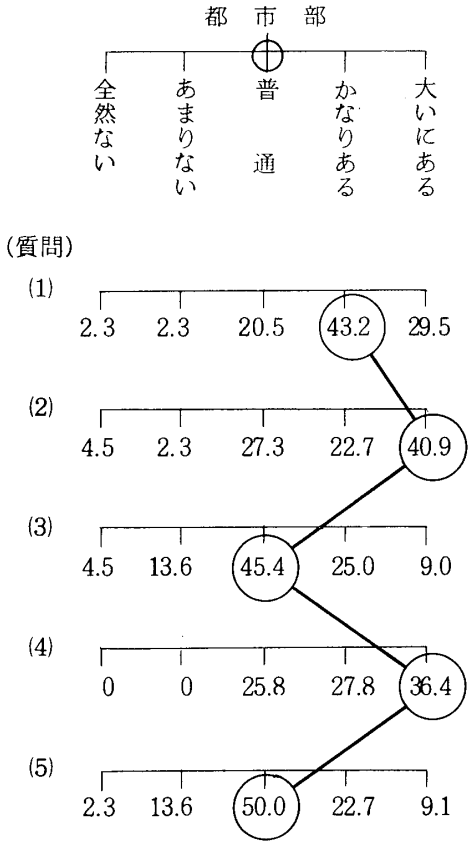
次下10の調査項目について，都市部（名大附高普通科2年生＝88名）と農村部（伊賀高校2年生＝74名）を比較して，その結果を考察する。

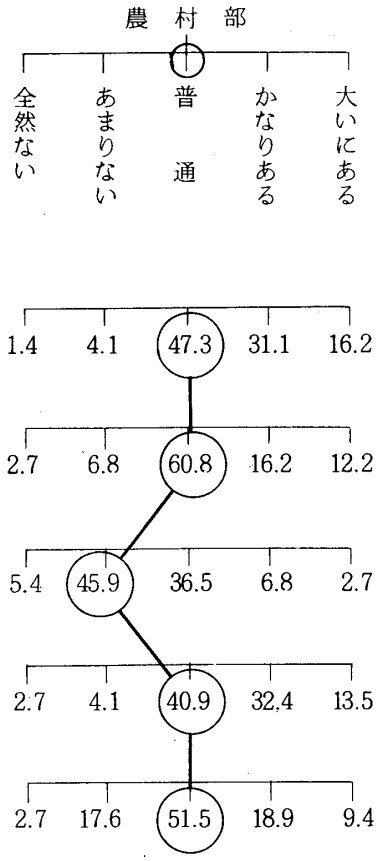
1. 社会的，政治的関心度比較

質問は次の通りである（5段階自己品等法）

(1) 就職・進学など自己の将来の進路について。
(2) 自己の能力や気質や性格について。
(3) 政治や経済など社会のしくみや動きについて。
(4) 友人や異性など対人関係について。
(5) 親・兄弟のことや家の暮し向きについて。

結果の比較，(数値は全て%，無記があるので100%にならない場合がある)





高校生の社会的，政治的関心は就職・進学問題や自己の能力・性格や（内に向う関心）友人，異性，家族などの身近かな人間関係への関心に比べて強いとはいえない。特に農村部の場合，社会的，政治的関心は弱いといえる。

しかし，特定の時事的問題については，2.に見られるように一時的，一過的に強い関心がある。

2. 政治への期待・要求（第一要求のみ）

項目 ＼ 地域別	都市部	農村部
①インフレを押え，経済安定	54.5％	52.7
②身障者や老齢者のための社会保障の充実	6.8	22.9
③高校・大学入試制度を改めて，激しい受験競争をなくせよ	7.0	10.2
④公害防止の厳しい措置	16.9	12.2
⑤通学のための交通機関の整備	4.5	2.0
⑥公営住宅増設，住宅難解決	4.6	0
⑦大企業から税金を多くとって，農業・中小企業の保護	6.8	4.1

現在の経済安定への期待が共に過半数を占めるが，農村部では，社会保障の充実が，都市部では公害防止への要求が第2位となっている。名大附高の高1.高2について，1位は変化なし，高3の場合，大学入試改善要求が2位になっている。受験期をひかえた高3生徒の環境によるものであろう。

3. 時事的，政治問題へのオリエンテーション，政治的関心への誘因。（高位順，1つとは限らない）

事項 ＼ 地域別	都市部	農村部
1. マスコミ情報から	75.0％	55.4％
2. 家庭での話題から	56.8	27.0
3. 友人から	22.7	17.6
4. 学校の先生・授業から	4.6	6.7
○ その他	9.1	6.7
○ 関心をもたない，考えない	11.4	27.0

マス・コミや父母及び友人からのコミュニケーションによる誘因が大きく，学校での先生，授業からの直接的影響はかなり小さい。むしろマス・コミ情報の影響力をまざまざと見せつけている。但し，このような関心はかなり一時的，一過的性格のものと考えられる。

なお，高1.高3とも順位には変化がない。

4. 政治的（価値）判断の変化

下記の①～②にあげた2つの質問項目について，48年7月実施（名大附高3年生1クラス44名）の場合と比較してみよう。

①政治上の重要な問題を解決するためには「野党や反対党は政府の政治を批判するよりは，政府に協力することを考えるべきだ」という意見について。

②「現在の日本の政治は，特定の富をもっている人々や団体が，政府に対して大きな影響力をもっていて，そのために多数の国民の利益がおかされ，無視されている」という意見について。

質問	調査年・月	都市の高3 48.7	都市の高3 49.12	都市の高2 49.12	農村の高2 50.1
①	同感	25.4	45.5	43.2	51.0
	異論	74.4	54.5	56.8	49.0
②	同感	97.7	88.1	79.6	78.7
	異論	2.3	11.9	20.4	21.3

（数値は全て%）

明らかに，学年や地域による違いよりは，（むしろ有意差はない）調査時点における日本の政治状勢やマスコミ論調の影響を強く受けているといえる。(46.7月現在では田中内閣に対する批判が強く，最近の情況は，49年12月～50年初めは三木内閣に対する世評を反映していると見ることができる)

5. 国に対する要求（権利）と自己責任（義務）

「国民は国に対して，何かを要求する前に，自分が国に対して，何ができるかを考えるべきだ」という意見について。

	都市 高1	都市 高2	都市 高3	農村 高2
肯定的意見	58.1	39.6	40.0	56.8
批判的意見	41.9	60.3	60.0	43.2

肯定的意見は都市の場合，高1＞高2・3となり，農村の高2は都市の高1の比率に近い。

しかし，これも，時のマクロ的な政治情勢やマスコミ情報に左右されると考えられる。

6. 社会的，政治的意識（心理）の傾向的特徴

政治意識の予備的調査研究によって，下記のように生徒の「日本の政治の現状」についての意見から4つの社会的，政治的意識（心理）の代表的事例をとり出すと次のようになる。

Ⓐ楽観的な意見の例「政治はいつの世の中でも問題が多いであろうし，今のところうまくいっている方だ」

Ⓑ革新的な意見の例「身のまわりの出来事を見わたしても今の世の中は矛盾ばかりだ。しかし国民もバカではないからこのような状態は打開されなければならないし，いずれは改善される。いや改善していかなければならない」

Ⓒ虚無的な意見の例「公害もひどくなるし，こんな世の中で将来を望むことはできない。特定の金持にとってはうまくいく世の中かもしれないが，そのためのぎせい者は目も向けられない。なにか大きなことが起るかどうかしなければ，どうにもならない」

Ⓓ保守的な意見の例「今のところ大目にみて人々は食うに困らず生活しているから，現状をよしとしなければなるまい。しかし，このまま資本主義が進んでゆくと，いきづまるかも知れない。だから日本の伝統や歴史的経験を大切にしなければならない」

これに基づいて，次のような質問に類型化した。

「日本の社会や政治について，次のA～Bからあなたの考えに最も近いものを1つ選び，その理由を付記せよ」

A．現状では比較的に安定しており，将来はもっとよくなるであろう。

B．現状は全くひどくて，いきづまっているが，将来はよい方向に変わるだろうし，変えなければならない。

C．現状は全くひどいし，将来もよくなりそうにない。また変えることも難しい。

D．現状はまあ安定しているが将来はいきづまりがひどくなり，よくなりそうにない。

「社会的・政治意識パターンの学年別・地域別比較」

類型	大都市 高1	大都市 高2	大都市 高3	農村 高2
A 楽観主義型	9.5	2.7	2.1	5.8
B 革新主義型	35.7	31.8	30.5	56.7
C 虚無主義型	38.1	36.4	42.9	24.3
D 保守主義型	16.7	29.1	24.9	10.8

これによってみると，都市高校生では，A楽観型＜D保守型＜B革新型＜C虚無型となっている。さらに注目すべき傾向として，高1～高3へ高学年程Cの虚無的，アナーキ的傾向が強くなる点である。このタイプは意見側にもみられるように状況によっては心情的にラジカリズムに向うものを内在しているとみることができる。これに対して，農村部の高校生にBの革新型志向が第1位の比重を占めることは，むしろ常識的大都市革新志向，農村は保守志向といった形ではなく，むしろ現状改変への願望的心情を反映しているものと見ることができよう。

次に「高校生と政治活動」についての意見を簡単に3つのタイプとし，（保守型）「高校生は未成年であるから，政治問題の研究，学習に止めるべきで，現実の政治活動に加わわるべきでない」（ラジカル型）「高校生といえども集会，結社の自由は保障されるべきであり，現実の政治活動に参加してもよい」（中庸型）「未成年者は父母の親権に従わなければならないという民法上の規定や参政権が与えられていないことから，高校生の現実の政治活動には一定の限界がある」に分けてみる。都市の高1では，保守型＜ラジカル型＜中庸型となり，高2では保守型＜中庸型＜ラジカル型となり，農村の高2についても同じ傾向が見られた。ただ注目すべき点として，都市の高3では保守型＜ラジカル型＜中庸型となって，ラジカル型が低下する。むしろ現実に参加できないという条件を考えて，常識的意見を与えたものとも考えられる。

それにしても，高校生の社会的，政治的意識（心理）の転回点が高2の段階に現われるように思われる。もっともそれは個々の生徒の場合でかなり異なった現われ方をするが，保守と革新，楽観とニヒリズムがかなりアンビバランスに分極化するのもこの時期であるように思われる。

7. 社会生活の中での心構え，価値観

（社会生活の中での心構えや態度について，大切だと思うものを2つ選ばせる。）

結果については次の表の通りである。

	大都市			農村
	高1	高2	高3	高2
a　国の発展のために，皆んなが協力	18.6	9.1	7.2	20.3
b　自由を尊重し，個人の権利を主張	18.6	38.6	50.0	41.9
c　公共のものや，公共の福祉を尊重	72.1	52.3	52.4	31.1
d　他人を害しない限り，自分の好きにする。	16.3	15.9	21.4	14.9
e　人間関係を円滑にし争いをさける	46.5	56.8	54.8	64.9
f　自分の利益よりもまず人のために	25.6	25.0	11.9	22.9

（数値は%，2つ選択＝200%）

最も多いのが都市高1の公共の福祉尊重であり，高2,高3,農村の高2もe，の人間関係の円滑化となっているが，最も低率のa（国の発展のために皆んなが協力）は農村の高2が都市にくらべてやや高い。

以上をさらに集約化して，＜a＝f＞を「保守的価値観」，＜b＝d＞を「進歩的価値観」,＜c＝e＞を「中庸的価値観」として，比較すると次のようになる。（100%）

		保守	進歩	中庸
大都市	高1	22.1	17.5	59.3
	高2	15.9	27.3	54.6
	高3	9.6	35.7	53.6
農	高2	21.6	28.4	48.0

学年別では高1が進歩＜保守＜中庸となり，高2・3が保守＜進歩＜中庸のタイプとなっている。

全体として，高校生の社会的心構えや価値観は，中庸的な価値志向といえるが，学年段階では，進歩的価値志向が高1＜高2＜高3と高くなり，逆に伝統的，保守的価値志向が，低減傾向を見せることが注目される。

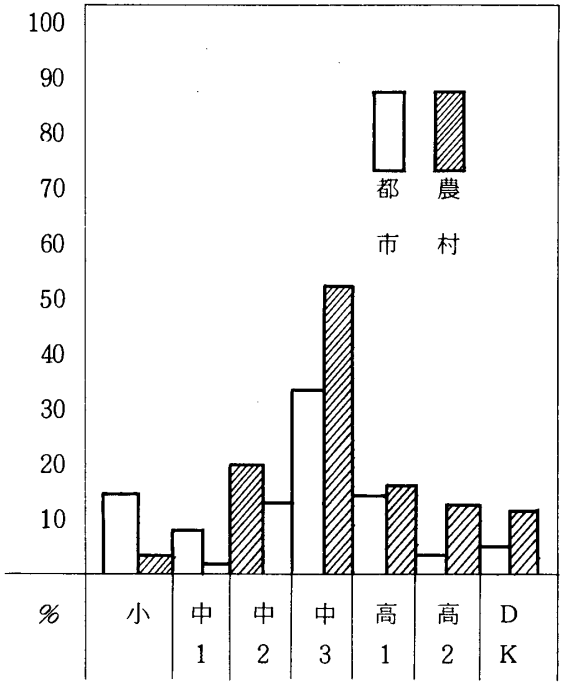
8. 社会的，政治的関心の開始時期と現在の関心

先づ，政治や社会の動き，しくみについて，関心をもつようになった時期についての設問結果を高2について都市部，農村部で比較する。

（%）

	小	中1	中2	中3	高1	高2	DK
都	13.6	5.8	20.4	34.1	11.4	2.3	4.5
農	2.7	1.8	10.8	51.4	14.9	10.8	9.5

図　社会的，政治的関心の開始期



これによれば，都市，農村とも中学校３年生の段階に関心の開始時期が多く，高２現在はむしろ非常に低率である。このことは社会科における政治，経済，社会的教材内容をもつ「公民的分野」の学習が中３に置かれていることに関連があると考えられる。(現行学習指導要領) ただ特定の生徒を除いて，農村よりも大都市の生徒の政治的，社会的関心の開始時期が早く，小学校上級段階で13%の生徒が関心をもったとしている。しかし，いずれにしても，義務教育最終段階の中３における社会科学習指導の重要性を認めることができる。

「高校２年現在における関心の程度，学習意欲」を次に表示する。

(%)

	全然ない	あまりない	普通の程度	かなりある	大いにある
都市	6.8	9.1	47.7	20.5	15.9
農村	9.5	27.0	50.1	10.8	4.6

これによれば，関心の程度や学習意欲はそれほど大きいとはいえない。特に農村部の場合，普通若しくはあまりないが，合せて75%をしめている。

(3)政治，経済，社会問題の学習関心領域

「今後，考えたり，勉強したいと思うことについて」自由記述の事例を事項別にまとめてみると次のようになる。(無記を除く，実数)

領域・事項	都市	農村
○政治の現状(国会・政党問題など)	5	3
○経済問題(インフレ・物価・不況)	4	3
○社会保障・福祉の問題	3	9
○国際問題(中近東・ベトナムなど)	3	2
○公害・環境問題	1	2
○社会思想・理論(共産主義・社会体制など)	2	0
○差別・同和対策問題	0	2
○自分の生き方・将来の進路	4	3
○その他(権利・幸福・哲学など)	5	3

これによれば，都市，農村とも共通する関心領域を認めることができるが，一方では都市高校生の場合，関心領域が多様に拡散する傾向があるのに対して，農村の場合，老人の福祉や身障者問題等をとりあげている生徒が多い。特に同和問題をとりあげていることは注目に価いする。この例のように問題によっては，都市よりも農村の生徒にするどい現実的関心を示すものがあることが認められた。

＜付　記＞

この調査研究に当っては，昭和49年度，文部省科学研究費（奨励研究B）の交付を受けた。

しかし，50年３月末日付，筆者の名大附属高校退職，中京女子大学への転出に伴ない，調査研究報告の一部に止めざるを得なかった。研究の発展については，さらに今後も期したいと思う。(50年４月８日)